



F コマンド

この章では、F で始まる、Cisco NX-OS ファイバ チャンネル、仮想ファイバ チャンネル、および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) のコマンドについて説明します。

fabric profile

事前設定された Quality of Service (QoS) 設定を利用するには、**fabric profile** コマンドを使用します。デフォルトに戻す場合は、このコマンドの **no** 形式を入力します。

```
fabric profile {reliable-multicast | unicast-optimized}
```

```
no fabric profile
```

構文の説明

reliable-multicast	マルチキャストトラフィック配信の信頼性を高めるためにファブリックの QoS パラメータを最適化します。
unicast-optimized	ユニキャストトラフィックに関するファブリックの QoS パラメータを最適化します。

コマンドデフォルト

unicast-optimized

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、マルチキャストトラフィック配信の信頼性を高めるためのファブリックを設定する例を示します。

```
switch(config)# fabric profile reliable-multicast
```

次に、ファブリックプロファイルをデフォルト値に設定する例を示します。

```
switch(config)# no fabric profile
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fabric profile	ファブリックの現行の設定値を表示します。

fabric-binding activate

Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) のファブリック バインディングをアクティブにするには、**fabric-binding activate** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fabric-binding activate vsan vsan-id [force]

no fabric-binding activate vsan vsan-id

構文の説明

vsan vsan-id	VSAN を指定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。
force	(任意) ファブリック バインディングを強制的に有効にします。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、指定の VSAN のファブリック バインディング データベースをアクティブにする例を示します。

```
switch(config)# fabric-binding activate vsan 1
```

次に、指定の VSAN のファブリック バインディング データベースを非アクティブにする例を示します。

```
switch(config)# no fabric-binding activate vsan 10
```

次に、指定の VSAN のファブリック バインディング データベースを強制的にアクティブにする例を示します。

```
switch(config)# fabric-binding activate vsan 3 force
```

次に、以前の設定状態に戻すか、または工場出荷時のデフォルト状態に戻す (状態が設定されていない場合) 例を示します。

```
switch(config)# no fabric-binding activate vsan 1 force
```

関連コマンド

コマンド	説明
fabric-binding database	ファブリック バインディング データベースを設定します。
fabric-binding enable	ファブリック バインディングをイネーブルにします。

fabric-binding database copy

アクティブなファブリック バインディング データベースからコンフィギュレーション ファブリック バインディング データベースへのコピーを実行するには、**fabric-binding database copy** コマンドを使用します。

fabric-binding database copy vsan vsan-id

構文の説明	vsan vsan-id	Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) を指定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。
-------	---------------------	---

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン ファブリック バインディングは、VSAN 単位で構成されており、FICON VSAN およびファイバ チャネル VSAN の両方に実装できます。
設定されたデータベースが空の場合、このコマンドは受け付けられません。

例 次に、VSAN 1 内のアクティブなデータベースからコンフィギュレーション データベースにコピーする例を示します。

```
switch# fabric-binding database copy vsan 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	fabric-binding diff	ファブリック バインディング データベース間の差異を提供します。

fabric-binding database diff

Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) 内のアクティブ データベースとコンフィギュレーション データベースの差異を表示するには、**fabric-binding database diff** コマンドを使用します。

```
fabric-binding database diff {active | config} vsan vsan-id
```

構文の説明

active	コンフィギュレーション データベースに対するアクティブ データベース内の差異についての情報を提供します。
config	アクティブ データベースに対するコンフィギュレーション データベース内の差異についての情報を提供します。
vsan vsan-id	VSAN を指定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ファブリック バインディングは、VSAN 単位で構成されており、FICON VSAN およびファイバ チャネル VSAN の両方に実装できます。

例

次に、VSAN 1 のアクティブ データベースとコンフィギュレーション データベースの間の差異を表示する例を示します。

```
switch# fabric-binding database diff active vsan 1
```

次に、コンフィギュレーション データベースとアクティブ データベースの間の差異を表示する例を示します。

```
switch# fabric-binding database diff config vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
fabric-binding copy	アクティブ ファブリック バインディング データベースからコンフィギュレーション ファブリック バインディング データベースにコピーします。

fabric-binding database vsan

Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) 内のユーザ指定ファブリック バインディング リストを設定するには、**fabric-binding database vsan** コマンドを使用します。ファブリック バインディングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fabric-binding database vsan vsan-id
swwn switch-wwn domain domain-id
```

```
fabric-binding database vsan vsan-id
no swwn switch-wwn domain domain-id
```

```
no fabric-binding database vsan vsan-id
```

構文の説明

vsan <i>vsan-id</i>	VSAN を指定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。
swwn <i>switch-wwn</i>	スイッチの WWN をドット付き 16 進表記で設定します。
domain <i>domain-id</i>	特定のドメイン ID を指定します。ドメイン ID の範囲は 1 ~ 239 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ファブリック バインディングは、VSAN 単位で設定します。ファイバチャネル VSAN では、Switch World Wide Name (sWWN) だけが必要です。ドメイン ID は任意です。

ユーザ指定のファブリック バインディング リストには、ファブリック内の sWWN のリストが含まれています。リストにない sWWN、または許可リストで指定されているドメイン ID と異なるドメイン ID を使用する sWWN がファブリックへの参加を試みると、スイッチとファブリック間の ISL が VSAN 内で自動的に隔離され、スイッチはファブリックへの参加を拒否されます。

例

次に、ファブリック バインディング データベース モードを開始して、スイッチの sWWN およびドメイン ID を、設定済みのデータベース リストに追加する例を示します。

```
switch(config)# fabric-binding database vsan 5
switch(config-fabric-binding)# swwn 21:00:05:30:23:11:11:11 domain 102
```

次に、指定の VSAN のファブリック バインディング データベースを削除する例を示します。

```
switch(config)# no fabric-binding database vsan 10
```

次に、設定されたデータベース リストから、スイッチの sWWN およびドメイン ID を削除する例を示します。

```
switch(config)# fabric-binding database vsan 5
switch(config-fabric-binding)# no swwn 21:00:15:30:23:1a:11:03 domain 101
```

関連コマンド

コマンド	説明
fabric-binding activate	ファブリック バインディングをアクティブにします。
fabric-binding enable	ファブリック バインディングをイネーブルにします。

fabric-binding enable

Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) のファブリック バインディングをイネーブルにするには、**fabric-binding enable** コマンドを使用します。ファブリック バインディングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fabric-binding enable

no fabric-binding enable

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
5.1(3)N1(1)	このコマンドは非推奨になり、 feature fabric-binding コマンドに置き換えられました。これは、下位互換性のためにいくつかのリリースにわたって保持されます。

使用上のガイドライン

ファブリック バインディングは、VSAN 単位で設定します。

ファブリック バインディングに参加するファブリック内のスイッチごとに、ファブリック バインディング機能をイネーブルにする必要があります。

例

次に、スイッチのファブリック バインディングをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# fabric-binding enable
```

次に、スイッチのファブリック バインディングをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no fabric-binding enable
```

関連コマンド

コマンド	説明
fabric-binding activate	ファブリック バインディングをアクティブにします。
fabric-binding database	ファブリック バインディング データベースを設定します。

fc-port-security

ポートセキュリティ機能を設定して侵入の試みを拒否するには、**fc-port-security** コマンドを使用します。コマンドを無効にするか、または工場出荷時のデフォルト状態に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fc-port-security {activate vsan vsan-id [force | no-auto-learn] | auto-learn vsan vsan-id |  
database vsan vsan-id}
```

```
no fc-port-security {activate vsan vsan-id [force | no-auto-learn] | auto-learn vsan vsan-id |  
database vsan vsan-id}
```

構文の説明

activate	指定 VSAN のポートセキュリティデータベースをアクティブにして、自動学習機能を自動的にイネーブルにします。
vsan <i>vsan-id</i>	Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
force	(任意) データベースを強制的にアクティブにします。
no-auto-learn	(任意) ポートセキュリティデータベースの自動学習機能をディセーブルにします。
auto-learn	指定した VSAN で自動学習をイネーブルにします。
database	指定した VSAN でポートセキュリティデータベース コンフィギュレーション モードを開始します。

コマンドデフォルト

ディセーブル

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ポートセキュリティ機能をアクティブにすると、**auto-learn** オプションも自動的にイネーブルになります。**fc-port-security activate vsan number no-auto-learn** コマンドを使用することによって、**fc-port-security** 機能をアクティブにし、自動学習をディセーブルにすることを選択できます。この場合、手動でポートセキュリティデータベースを読み込んで個別に各ポートの安全性を確保する必要があります。

auto-learn オプションが VSAN でイネーブルの場合、**force** オプションを使用しないとその VSAN のデータベースをアクティブにできません。

例

次に、指定された VSAN のポートセキュリティデータベースをアクティブにして、自動学習を自動的にイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# fc-port-security activate vsan 1
```

次に、指定された VSAN のポートセキュリティ データベースを非アクティブにして、自動学習を自動的にディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no fc-port-security activate vsan 1
```

次に、VSAN 1 のポートセキュリティ データベースの自動学習機能をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# fc-port-security activate vsan 1 no-auto-learn
```

次に、自動学習をイネーブルにすることで、VSAN 1 へのアクセスが許可されているすべてのデバイスについてスイッチが学習できるようにする例を示します。これらのデバイスは、ポートセキュリティ アクティブ データベースに記録されます。

```
switch(config)# fc-port-security auto-learn vsan 1
```

次に、自動学習をディセーブルにして、スイッチにアクセスする新しいデバイスについてスイッチが学習することを停止する例を示します。

```
switch(config)# no fc-port-security auto-learn vsan 1
```

次に、指定された VSAN のポートセキュリティ データベース モードを開始する例を示します。

```
switch(config)# fc-port-security database vsan 1
switch(config-fc-port-security)#
```

次に、競合がある場合でも、VSAN 1 のポートセキュリティ データベースを強制的にアクティブにする例を示します。

```
switch(config)# fc-port-security activate vsan 1 force
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fc-port-security database	設定されたポートセキュリティ情報を表示します。

fc-port-security abort

処理中のポートセキュリティ Cisco Fabric Service (CFS) 配信セッションを廃棄するには、**fc-port-security abort** コマンドを使用します。

fc-port-security abort vsan vsan-id

構文の説明	vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
コマンドデフォルト	なし	
コマンドモード	グローバル コンフィギュレーション モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
例	次に、処理中のポートセキュリティ CFS 配信セッションを廃棄する例を示します。 switch(config)# fc-port-security abort vsan 33	
関連コマンド	コマンド	説明
	fc-port-security distribute	ポートセキュリティの CFS 配信をイネーブルにします。
	show fc-port-security	ポートセキュリティ情報を表示します。

fc-port-security commit

ファブリックで処理中のポートセキュリティ Cisco Fabric Service (CFS) 配信セッションについて、保留中の設定を適用するには、コンフィギュレーションモードで **fc-port-security commit** コマンドを使用します。

fc-port-security commit vsan vsan-id

構文の説明	vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
コマンドデフォルト	なし	
コマンドモード	グローバル コンフィギュレーション モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
例	次に、アクティブなポートセキュリティ設定への変更をコミットする例を示します。 switch(config)# fc-port-security commit vsan 13	
関連コマンド	コマンド	説明
	fc-port-security distribute	ポートセキュリティの CFS 配信をイネーブルにします。
	show fc-port-security	ポートセキュリティ情報を表示します。

fc-port-security database

ポートセキュリティ データベースをコピーするか、ポートセキュリティ データベース内の差異を表示するには、**fc-port-security database** コマンドを使用します。

fc-port-security database {copy | diff {active | config}} vsan vsan-id

構文の説明

copy	アクティブ データベースをコンフィギュレーション データベースにコピーします。
diff	アクティブ ポートセキュリティ データベースとコンフィギュレーション ポートセキュリティ データベースの差異を表示します。
active	アクティブ データベースをコンフィギュレーション データベースに書き込みます。
config	コンフィギュレーション データベースをアクティブ データベースに書き込みます。
vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。範囲は 1 ~ 4093 番です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

アクティブ データベースが空の場合、**fc-port-security database** は空です。**fc-port-security database diff active** コマンドを使用して競合を解決してください。

例

次に、アクティブ データベースをコンフィギュレーション データベースにコピーする例を示します。

```
switch# fc-port-security database copy vsan 1
```

次に、アクティブ データベースとコンフィギュレーション データベースの間の差異を出力する例を示します。

```
switch# fc-port-security database diff active vsan 1
```

次に、コンフィギュレーション データベースとアクティブ データベースの間の差異について情報を出力する例を示します。

```
switch# fc-port-security database diff config vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
fc-port-security database	ポート セキュリティ データベース間の差異についての情報をコピーし、表示します。
show fc-port-security database	設定されたポート セキュリティ情報を表示します。

fc-port-security distribute

ポートセキュリティ用の Cisco Fabric Service (CFS) 配信をイネーブルにするには、**fc-port-security distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fc-port-security distribute

no fc-port-security distribute

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ファイバ チャネル タイマーの変更をファブリックに配信する前に、**fc-port-security commit** コマンドを使用して、コンフィギュレーションへの一時的な変更をアクティブ コンフィギュレーションにコミットする必要があります。

例

次に、ポートセキュリティ コンフィギュレーションをファブリックに配信する例を示します。

```
switch(config)# fc-port-security distribute
```

関連コマンド

コマンド	説明
fc-port-security commit	ポートセキュリティ コンフィギュレーションの変更をアクティブ コンフィギュレーションに確定します。
show fc-port-security	ポートセキュリティ情報を表示します。

fcalias clone

ファイバ チャネル エイリアスを複製するには、**fcalias clone** コマンドを使用します。

fcalias clone origFcalias-Name cloneFcalias-Name vsan vsan-id

構文の説明		
<i>origFcalias-Name</i>		ファイバ チャネル エイリアスを指定します。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
<i>cloneFcalias-Name</i>		
vsan		Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) の複製ファイバ チャネル エイリアスを指定します。
<i>vsan-id</i>		VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン ファイバ チャネル エイリアスをディセーブルにするには、**fcalias name** コマンドの **no** 形式を使用します。

例 次に、VSAN 45 の cloneAlias に、origAlias という名前の FC エイリアスを複製する例を示します。

```
switch(config)# fcalias clone origAlias cloneAlias vsan 45
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fcalias	FC エイリアスのメンバー名情報を表示します。

fcalias name

ファイバ チャネル エイリアスを設定するには、**fcalias name** コマンドを使用します。ファイバ チャネル エイリアスをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcalias name *alias-name* **vsan** *vsan-id*

no fcalias name *alias-name* **vsan** *vsan-id*

構文の説明

<i>alias-name</i>	FC エイリアスの名前を指定します。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
vsan	Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) 用の FC エイリアスを指定します。
<i>vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

エイリアス内に複数のメンバーを含めるには、FC ID、fWWN、または pWWN 値を使用します。

例

次に、VSAN 3 上に AliasSample という名前の FC エイリアスを設定する例を示します。

```
switch(config)# fcalias name AliasSample vsan 3
switch(config-fcalias)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
member (FC エイリアス コンフィギュレーション モード)	指定のゾーンに対するエイリアス メンバーを設定します。

fcalias rename

ファイバ チャネル エイリアス (Fcalias) の名前を変更するには、**fcalias rename** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcalias rename *current-name new-name vsan vsan-id*

no fcalias rename *current-name new-name vsan vsan-id*

構文の説明

<i>current-name</i>	現在の FC エイリアスの名前を指定します。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
<i>new-name</i>	新しい FC エイリアスの名前を指定します。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
vsan <i>vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

例

次に、FC エイリアスの名前を変更する例を示します。

```
switch(config)# fcalias rename oldalias newalias vsan 10
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcalias name	FC エイリアス名を設定します。
show fcalias	FC エイリアス情報を表示します。

fcdomain

ファイバチャネル ドメイン機能を設定するには、**fcdomain** コマンドを使用します。ファイバチャネル ドメインをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcdomain {allowed domain vsan vsan-id | auto-reconfigure vsan vsan-id | contiguous-allocation
vsan vsan-id | domain id {preferred | static} vsan vsan-id | fabric-name name vsan vsan-id |
fcid {database | persistent vsan vsan-id} | optimize fast-restart vsan vsan-id | priority value
vsan vsan-id | restart [disruptive] vsan vsan-id | vsan vsan-id}
```

```
no fcdomain {allowed domain vsan vsan-id | auto-reconfigure vsan vsan-id |
contiguous-allocation vsan vsan-id | domain id {preferred | static} vsan vsan-id |
fabric-name name vsan vsan-id | fcid {database | persistent vsan vsan-id} | optimize
fast-restart vsan vsan-id | priority value vsan vsan-id | restart [disruptive] vsan vsan-id | vsan
vsan-id}
```

構文の説明

allowed domain	許可されたドメイン ID のリストを設定します。有効範囲は 1 ～ 239 です。
vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ～ 4093 です。
auto-reconfigure	自動再設定を設定します。
contiguous-allocation	一連の割り当てを設定します。
domain id	ドメイン ID とそのタイプを設定します。有効な範囲は 0 ～ 239 です。
preferred	優先させるドメイン ID を設定します。デフォルトでは、主要スイッチによって割り当てられたドメイン ID がローカルスイッチで受け入れられ、割り当てられたドメイン ID は実行中のドメイン ID になります。
static	スタティックにドメイン ID を設定します。割り当てられたドメイン ID は廃棄されます。すべてのローカルインターフェイスが独立し、ローカルスイッチが自身に設定されたドメイン ID を割り当てます。割り当てられたドメイン ID が実行中のドメイン ID になります。
fabric-name name	ファブリック名を指定します。名前のフォーマットは、 hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh です。
fcid	ファイバチャネルドメインに永続的な FC ID を設定します。
database	永続的な FC ID モードを開始します。
persistent	ファイバチャネルドメインの永続的な FC ID をイネーブル、またはディセーブルにします。
optimize fast-restart	指定の VSAN 上でドメインマネージャの高速再起動をイネーブルにします。
priority value	(任意) ファイバチャネルドメインのプライオリティを指定します。範囲は 1 ～ 254 です。
restart	中断のある、または障害のないファブリックの再設定を開始します。
disruptive	(任意) 中断を伴うファブリック再設定を強制的に実行します。

コマンドデフォルト

イネーブル

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、主要なスイッチの選択、ドメイン ID 配信の設定、ファブリックの再構成、および FC ID の割り当てを実行できます。

大部分のファブリックでは、特に多数の論理ポート（3200 以上）を使用する場合は、**optimize fast-restart** オプションを使用することを推奨します。論理ポートは VSAN 内の物理ポートのインスタンスであるためです。

例

次に、VSAN 87 に優先ドメイン ID を設定する例を示します。

```
switch(config)# fcdomain domain 3 preferred vsan 87
```

次に、VSAN 1 に中断を伴うファブリック再設定を指定する例を示します。

```
switch(config)# fcdomain restart disruptive vsan 1
```

次に、VSAN 7 ~ 10 のドメイン マネージャの高速再起動をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# fcdomain optimize fast-restart vsan 7 - 10
```

次に、VSAN 3 に Fabric World Wide Name (fWWN) を設定する例を示します。

```
switch(config)# fcdomain fabric-name 20:1:ac:16:5e:0:21:01 vsan 3
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcdomain	ファイバチャネル ドメインの設定に関するグローバルな情報を表示します。

fcdomain abort vsan

キャッシュされたデータをコミットせずにフラッシュしてロックを解除するには、**fcdomain abort vsan** コマンドを使用します。キャッシュされたデータのフラッシュをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcdomain abort vsan vsan-id

no fcdomain abort vsan vsan-id

構文の説明

<i>vsan-id</i>	Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
----------------	--

コマンド デフォルト

イネーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、キャッシュされたデータをフラッシュする例を示します。

```
switch(config)# fcdomain abort vsan 10
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcdomain	ファイバ チャネル ドメイン機能をイネーブルにします。
fcdomain commit vsan	キャッシュされたデータを確定し、ロックを解除します。
show fcdomain	ファイバ チャネル ドメインの設定に関するグローバルな情報を表示します。

fcdomain commit vsan

キャッシュされたデータを確定して、ロックを解除するには、**fcdomain commit vsan** コマンドを使用します。キャッシュされたデータをコミットせずにロックを解除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcdomain commit vsan vsan-id

no fcdomain commit vsan vsan-id

構文の説明

vsan vsan-id VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト

イネーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、キャッシュされたデータをコミットする例を示します。

```
switch(config)# fcdomain commit vsan 10
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcdomain	ファイバ チャネル ドメイン機能をイネーブルにします。
fcdomain abort vsan	キャッシュされたデータを確定せずにフラッシュし、ロックを解除します。
show fcdomain	ファイバ チャネル ドメインの設定に関するグローバルな情報を表示します。

fcdomain distribute

Cisco Fabric Services (CFS) を使用したファブリック配信をイネーブルにするには、**fcdomain distribute** コマンドを使用します。CFS を使用したファブリック配信をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcdomain distribute

no fcdomain distribute

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、CFS を使用したファブリック配信をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# fcdomain distribute
```

次に、CFS を使用したファブリック配信をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no fcdomain distribute
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcdomain	ファイバ チャネル ドメイン機能をイネーブルにします。
show fcdomain	ファイバ チャネル ドメインの設定に関するグローバルな情報を表示します。

fcdomain rcf-reject

ファイバ チャネル インターフェイスの Reconfigure Fabric (RCF) 拒否フラグをイネーブルにするには、**fcdomain rcf-reject** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcdomain rcf-reject vsan vsan-id
```

```
no fcdomain rcf-reject vsan vsan-id
```

構文の説明

vsan vsan-id	Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
---------------------	--

コマンド デフォルト

イネーブル

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

選択したファイバ チャネルまたは仮想ファイバ チャネルのインターフェイスに RCF 拒否オプションを設定するには、このコマンドを使用します。

例

次に、仮想ファイバ チャネル インターフェイスに FCIP RCF 拒否の **fcdomain** 機能を設定する例を示します。

```
switch(config)# interface vfc 3
switch(config-if)# fcdomain rcf-reject vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcdomain	ファイバ チャネル ドメインの設定に関するグローバルな情報を表示します。
show interface fc	指定したファイバ チャネル インターフェイスのインターフェイス設定を表示します。

fcdroplateny

ネットワークおよびスイッチのファイバチャネル廃棄遅延時間を設定するには、**fcdroplateny** コマンドを使用します。ファイバチャネルの遅延時間をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcdroplateny {**network** *milliseconds* [**vsan** *vsan-id*] | **switch** *milliseconds*}

no fcdroplateny {**network** *milliseconds* [**vsan** *vsan-id*] | **switch** *milliseconds*}

構文の説明

network <i>milliseconds</i>	ネットワークの遅延を指定します。有効な範囲は 500 ～ 60000 です。
vsan <i>vsan-id</i>	(任意) Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) ID を指定します。有効な範囲は 1 ～ 4093 です。
switch <i>milliseconds</i>	スイッチの遅延を指定します。有効な範囲は 0 ～ 60000 ミリ秒です。

コマンドデフォルト

ネットワーク遅延 : 2000 ミリ秒
スイッチ遅延 : 500 ミリ秒

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、ネットワーク遅延時間を 5000 ミリ秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# fcdroplateny network 5000
```

次に、スイッチ遅延時間をデフォルトに戻す例を示します。

```
switch(config)# no fcdroplateny switch 4000
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcdroplateny	設定されているファイバチャネル廃棄遅延パラメータを表示します。

fcflow stats

fcflow 統計情報を設定するには、**fcflow stats** コマンドを使用します。カウンタをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcflow stats {aggregated index flow-number vsan vsan-id | index flow-number destination-fcid
source-fcid netmask vsan vsan-id}
```

```
no fcflow stats {aggregated index flow-number | index flow-number}
```

構文の説明

aggregated	集約 fcflow 統計情報を設定します。
index <i>flow-number</i>	フロー インデックスを指定します。指定できる範囲は 1 ~ 2147483647 です。
vsan <i>vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
<i>destination-fcid</i>	宛先 FCID を 16 進数の形式で指定します。
<i>source-fcid</i>	送信元 FCID を 16 進数の形式で指定します。
<i>netmask</i>	送信元および宛先 FCID のマスクを指定します (16 進数で最大 6 文字で、範囲は 0xff0000 ~ 0xffffffff)。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

フロー カウンタをイネーブルにした場合、集約フローおよびフロー統計情報に対して最大 1024 のエントリをイネーブルにできます。使用されていないフロー インデックスを、各新規フローに割り当てるようにしてください。フロー インデックスの番号の間は、集約フロー統計情報とフロー統計情報間で共有します。

例

次に、集約フロー カウンタをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# fcflow stats aggregated index 1005 vsan 1
```

次に、集約フロー カウンタをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no fcflow stats aggregated index 1005
```

次に、特定のフローのフロー カウンタをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# fcflow stats index 1 0x145601 0x5601 0xffffffff vsan 1
```

次に、インデックス 1001 のフロー カウンタをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no fcflow stats index 1001
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show fcflow stats</code>	設定されているファイバ チャネル廃棄遅延パラメータを表示します。

fcid-allocation

デフォルトのエリア企業 ID リストに FCID を手動で追加するには、**fcid-allocation** コマンドを使用します。デフォルトのエリア企業 ID リストから FCID を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcid-allocation area company-id company-id

no fcid-allocation area company-id company-id

構文の説明

area	会社 ID の自動地域リストを変更します。
company-id <i>company-id</i>	会社 ID を設定します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

FC 標準では、スイッチの Fx ポートに接続されている N ポートに一意の FCID を割り当てる必要があります。使用される FCID 数を保護するため、Cisco Nexus 5500 シリーズ スイッチは、特別な割り当て方式を使用します。

一部の Host Bus Adapter (HBA; ホストバスアダプタ) は、ドメインとエリアが同じ FC ID を持つターゲットを検出しません。スイッチ ソフトウェアは、この動作が発生しないテスト済みの企業 ID のリストを保持しています。これらの HBA には、単一の FCID が割り当てられ、残りにはエリア全体が割り当てられます。

多数のポートを持つスイッチのスケラビリティを高めるため、スイッチのソフトウェアはこの動作を実行する HBA のリストを保持します。各 HBA はファブリック ログインの間、pWWN で使用される企業 ID (Organizational Unique Identifier (OUI; 組織固有識別子) としても知られる) によって識別されます。エリア全体が、リストされている企業 ID を持つ N ポートに割り当てられ、残りには、単一の FC ID が割り当てられます。割り当てられる FC ID のタイプ (エリア全体または単一) に関係なく、FC ID エントリは永続的です。

例

次に、新しい企業 ID をデフォルトのエリア企業 ID リストに追加する例を示します。

```
switch(config)# fcid allocation area company-id 0x003223
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcid-allocation	企業 ID のファイバチャネルエリア リストを表示します。

fcinterop fcid-allocation

スイッチに FCID を割り当てるには、**fcinterop fcid-allocation** コマンドを使用します。スイッチの FCID をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcinterop fcid-allocation {auto | flat | none}
```

```
no fcinterop fcid-allocation {auto | flat | none}
```

構文の説明

auto	単一の FCID を互換性のある HBA に割り当てます。
flat	単一の FCID を割り当てます。
none	FCID 範囲を割り当てます。

コマンドデフォルト

デフォルトの設定は、FCID の自動割り当てです。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、スイッチの FCID 割り当て方法を定義します。

例

次に、FCID の割り当てを flat に設定する例を示します。

```
switch(config)# fcinterop fcid-allocation flat
```

関連コマンド

コマンド	説明
show flogi database	Fabric Login (FLOGI) テーブルを表示します。

fcns no-auto-poll

ネーム サーバ データベースでの自動ポーリングをイネーブルまたはディセーブルにするには、**fcns no-auto-poll** コマンドを使用します。

```
fcns no-auto-poll [vsan vsan-id] | [wwn wwn-id]
```

```
no fcns no-auto-poll [vsan vsan-id] | [wwn wwn-id]
```

構文の説明

vsan vsan-id	(任意) Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
wwn wwn-id	(任意) ポート WWN を指定します。フォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、VSAN 2 の自動ポーリングをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# fcns no-auto-poll vsan 2
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcns	指定の VSAN またはすべての VSAN に対するネーム サーバ データベース および統計情報を表示します。

fcns proxy-port

ネーム サーバ プロキシを登録するには、**fcns proxy-port** コマンドを使用します。

fcns proxy-port *wwn-id* **vsan** *vsan-id*

no fcns proxy-port *wwn-id* **vsan** *vsan-id*

構文の説明

<i>wwn-id</i>	ポート WWN を指定します。形式は、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> です。
vsan <i>vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

あるネーム サーバは、他のネーム サーバのプロキシとなるよう設定できます。ネーム サーバの情報は、CLI を使用して表示できます。ネーム サーバは CLI または Cisco Fabric Manager で表示させることができます。

ネーム サーバ登録要求はすべて、パラメータが登録または変更されたポートと同じポートから発信されます。同一ポートから送られない場合、要求は拒否されます。

例

次に、VSAN 2 のプロキシ ポートを設定する例を示します。

```
switch(config)# fcns proxy-port 21:00:00:e0:8b:00:26:d vsan 2
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcns	指定の VSAN またはすべての VSAN に対するネーム サーバ データベース および統計情報を表示します。

fcns reject-duplicate-pwwn vsan

Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) の重複 Fibre Channel Name Server (FCNS; ファイバ チャネル ネーム サーバ) を拒否するには、**fcns reject-duplicate-pwwn vsan** コマンドを使用します。

fcns reject-duplicate-pwwn vsan vsan-id

no fcns reject-duplicate-pwwn vsan vsan-id

構文の説明

vsan vsan-id VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

例

次に、VSAN 2 の重複 FCNS pWWN を拒否する例を示します。

```
switch(config)# fcns reject-duplicate-pwwn vsan 2
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcns	指定の VSAN またはすべての VSAN に対するネーム サーバ データベース および統計情報を表示します。

fcoe

Fibre Channel over Ethernet (FCoE) Initialization Protocol (FIP) および FCoE トラフィックのピン接続用にスイッチに Cisco Nexus 2000 シリーズ ファブリック エクステンダ (FEX) を関連付けるには、**fcoe** コマンドを使用します。アソシエーションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcoe [vsan vsan-id]
```

```
no fcoe [vsan]
```

構文の説明	vsan vsan-id	VSAN のステータスを指定します。VSAN ID の範囲は 1 ~ 4094 です。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド モード	FEX コンフィギュレーション モード VLAN コンフィギュレーション モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.1(3)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用する前に、**feature fex** コマンドを使用してスイッチの ファブリック エクステンダ (FEX) 機能がイネーブルになっていることを確認してください。

このコマンドは、Cisco Nexus 2232P ファブリック エクステンダでのみ使用できます。FCoE トラフィックをイネーブルにするために仮想ファイバチャネル インターフェイスにインターフェイスをバインドする場合は、スロット番号 1 を使用してください。指定できるポート番号の範囲は 1 ~ 32 です。

例 次に、イネーブルな FCoE として FEX を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature fex
switch(config)# fex 100
switch(config-fex)# fcoe
switch(config-fex)#
```

次に、ファブリックの仮想ポート チャネル (vPC) トポロジで FCoE トラフィックを伝送するために FEX のペアを設定する例を示します。FEX のホスト アップリンク ポートは同じポートチャネルに設定されています。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature lacp
switch(config)# feature fex
switch(config)# feature fcoe
switch(config)# fex 100
switch(config-fex)# fcoe
switch(config-fex)# exit
switch(config)# interface vfc 1
switch(config-if)# bind interface eth101/1/1
switch(config)# interface eth101/1/1
```

```

switch(config-if)# channel-group 1
switch(config)# fex 102
switch(config-fex)# fcoe
switch(config)# interface vfc 1
switch(config-if)# bind interface eth102/1/2
switch(config)# interface eth102/1/2
switch(config-if)# channel-group 1
switch(config-if)#

```

次に、VLAN 上で FCoE トラフィックを設定する例を示します。

```

switch# configure terminal
switch(config)# vlan 5
switch(config-vlan)# fcoe vsan 1
switch(config-vlan)#

```

次に、FEX で FCoE をディセーブルにする例を示します。

```

switch# configure terminal
switch(config)# fex 100
switch(config-fex)# no fcoe
switch(config-fex)#

```

関連コマンド

コマンド	説明
feature fcoe	スイッチの FCoE 機能をイネーブルにします。
feature fex	スイッチの FEX 機能をイネーブルにします。
feature lacp	Link Aggregation Control Protocol (LACP) をイネーブルにします。
show fex	特定の FEX に関する情報を表示します。

fcoe fcf-priority

Fibre Channel Forwarder (FCF) から FCoE ノード (ENode) にアダプタイズされる FCoE Initialization Protocol (FIP) のプライオリティ値を設定するには、**fcoe fcf-priority** コマンドを使用します。デフォルトの FCF プライオリティ値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcoe fcf-priority value

no fcoe fcf-priority value

構文の説明	<i>value</i>	FCF プライオリティ値を指定します。有効な範囲は 0 ~ 255 で、デフォルトは 128 です。
コマンド デフォルト	128	
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション モード インターフェイス vFC モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	このコマンドを使用する前に、 feature fcoe コマンドを使用してスイッチの FCoE をイネーブルにする必要があります。 Cisco Nexus 5500 シリーズ スイッチは、自身のプライオリティをアダプタイズします。このプライオリティは、最適な接続先スイッチを判別するためにファブリック内の統合ネットワーク アダプタ (CNA) によって使用されます。	
例	次に、スイッチ上で FCF プライオリティを設定する例を示します。 switch(config)# fcoe fcf-priority 50 switch(config)#	
関連コマンド	コマンド	説明
	fcoe fcmmap	FCoE MAC Address Prefix (FC-Map; FCoE MAC アドレス プレフィックス) 値を設定します。
	fcoe fka-adv-period	FIP キープアライブ (FKA) メッセージが ENode の MAC アドレスに送信される時間間隔を設定します。
	feature fcoe	スイッチ上で FCoE をイネーブルにします。
	show fcoe	FC-Map、デフォルト FCF プライオリティ値、FKA アダプタイズメント期間などの FCoE パラメータを表示します。

fcoe fcmmap

FCoE ノード (ENode) を関連付けるために使用される FCoE MAC アドレス プレフィックス (FC-Map) を設定するには、**fcoe fcmmap** コマンドを使用します。デフォルトのグローバル FC-Map 値 0xefc00 に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcoe fcmmap value

no fcoe fcmmap value

構文の説明

<i>value</i>	FC-Map 値を指定します。有効な範囲は 0xefc00 ~ 0xefcff で、デフォルトは 0xefc00 です。
--------------	--

コマンド デフォルト

0xefc00

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用する前に、**feature fcoe** コマンドを使用してスイッチの FCoE をイネーブルにする必要があります。

FC-Map を設定することにより、ファブリックをまたぐ通信を原因とするデータ破損を回避できます。FC-Map はこの Cisco Nexus 5500 シリーズ スイッチのファイバチャネル ファブリックを識別します。FC-Map が設定されると、現在のファブリックの一部ではない MAC アドレスがスイッチによって廃棄されます。

このコマンドにはライセンスが必要です。

例

次に、スイッチ上で FC-Map 値を設定する例を示します。

```
switch(config)# fcoe fcmmap 0xefc10
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcoe fcf-priority	FCoE Initialization Protocol (FIP) のプライオリティ値を設定します。
fcoe fka-adv-period	FIP キープアライブ (FKA) メッセージが ENode の MAC アドレスに送信される時間間隔を設定します。
feature fcoe	スイッチ上で FCoE をイネーブルにします。
show fcoe	FC-Map、デフォルト FCF プライオリティ値、FKA アドバタイズメント期間などの FCoE パラメータを表示します。

fcoe fka-adv-period

FIP キープアライブ (FKA) メッセージが FCoE ノード (ENode) の MAC アドレスに送信される時間間隔を設定するには、**fcoe fka-adv-period** コマンドを使用します。デフォルト値の 128 秒に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcoe fka-adv-period *value*

no fcoe fka-adv-period *value*

構文の説明

<i>value</i>	FKA アドバタイズメント期間 (秒単位) を指定します。有効な範囲は 4 ~ 60 秒で、デフォルトは 8 秒です。
--------------	---

コマンド デフォルト

8 秒

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用する前に、**feature fcoe** コマンドを使用して、スイッチ上で FCoE をイネーブルにする必要があります。

例

次に、スイッチの FKA アドバタイズメント期間を 5 秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# fcoe fka-adv-period 5
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcoe fcf-priority	FCoE Initialization Protocol (FIP) のプライオリティ値を設定します。
fcoe fcmap	FCoE ノード (ENode) を関連付けるのに使用される FCoE MAC アドレスプレフィックス (FC-Map) を設定します。
feature fcoe	スイッチ上で FCoE をイネーブルにします。
show fcoe	FC-Map、デフォルト FCF プライオリティ値、FKA アドバタイズメント期間などの FCoE パラメータを表示します。
show fcoe database	FCoE データベース情報を表示します。

fcoe veloopback

仮想 E (VE) ポートの仮想ファブリック ID (VFID) チェックをイネーブルにするには、**fcoe veloopback** コマンドを使用します。VE ポートのチェックをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcoe veloopback

no fcoe veloopback

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

ディセーブル

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N2(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用する前に、**feature fcoe-npv** コマンドを使用して、スイッチ上で Fibre Channel over Ethernet (FCoE) N ポート バーチャライザ (NPV) がイネーブルであることを確認します。このコマンドには、FCoE NPV ライセンスが必要です。

例

次に、VE ポートの VFID チェックをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# fcoe veloopback
switch(config)#
```

次に、VE ポートの VFID チェックをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no fcoe veloopback
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature fcoe-npv	FCoE NPV 機能をイネーブルにします。
show fcoe-npv	FCoE NPV の設定情報を表示します。
issu-impact	

fcoe vsan

Fibre Channel over Ethernet (FCoE) トラフィックを伝送する VLAN に Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) をマッピングするには、**fcoe vsan** コマンドを使用します。マッピングを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcoe vsan [vsan_ID]
```

```
no fcoe vsan [vsan_ID]
```

構文の説明

vsan_ID (任意) VSAN ID。有効な範囲は 1 ~ 4094 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

VLAN コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

FCoE VLAN を VSAN にマッピングする前に、VSAN データベース コンフィギュレーション モードで **vsan** コマンドを使用して VSAN を作成する必要があります。

FCoE には FCoE VLAN だけを使用する必要があります。デフォルト VLAN の VLAN1 を FCoE VLAN として使用しないでください。プライベート VLAN では、FCoE はサポートされません。

FCoE VLAN を VSAN にマッピングするとき、その VSAN が別の FCoE VLAN にマッピングされていないことを確認してください。FCoE VLAN をマッピングする VSAN が別の FCoE VLAN にすでにマッピングされている場合、次のエラーが表示されます。

```
vlan 30:another FCOE VLAN mapping exists using the requested VSAN
```

VSAN 番号を指定しない場合、使用中の FCoE VLAN から、同じ番号の VSAN へのマッピングが作成されます。

例

次に、FCoE VLAN から VSAN にマッピングする例を示します。

```
switch(config)# vlan 30
switch(config-vlan)# fcoe vsan 337
switch(config-vlan)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show vsan	VSAN のコンフィギュレーション情報を表示します。
show vlan fcoe	FCoE VLAN から VSAN へのマッピングを表示します。
show vsan membership	VSAN メンバーシップ情報を表示します。

コマンド	説明
<code>vsan</code>	VSAN 情報またはメンバーシップを設定します。
<code>vsan database</code>	VSAN データベース モードを開始します。

fcping

N ポートに ping を実行するには、**fcping** コマンドを使用します。

```
fcping {device-alias aliasname | fcid {fc-port | domain-controller-id} | pwwn pwwn-id} vsan
vsan-id [count number [timeout value [usr-priority priority]]]
```

構文の説明

device-alias <i>aliasname</i>	デバイスエイリアス名を指定します。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
fcid	宛先 N ポートの FCID を指定します。
<i>fc-port</i>	FCID ポート（形式は <i>0xhhhhhh</i> ）
<i>domain-controller-id</i>	宛先スイッチに接続するコントローラ ID を指定します。
pwwn <i>pwwn-id</i>	宛先 N ポートのポート WWN を指定します。フォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> です。
vsan <i>vsan-id</i>	宛先 N ポートの VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
count <i>number</i>	（任意）送信フレーム数を指定します。値 0 はフレームを送り続けることを意味します。有効な範囲は 0 ~ 2147483647 です。
timeout <i>value</i>	（任意）タイムアウト値を秒単位で指定します。有効な範囲は 1 ~ 10 で、デフォルトの待機時間は 5 秒です。
usr-priority <i>priority</i>	（任意）スイッチファブリックでフレームが受信するプライオリティを指定します。有効な範囲は 0 ~ 1 です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ドメインコントローラ ID を得るには、ドメイン ID と FFFC を結合します。たとえば、ドメイン ID が 0xda (218) の場合、連結された ID は 0xfffcda になります。

例

次に、宛先の FCID に fcping 操作を設定する例を示します。デフォルトでは、5 フレームが送信されません。

```
switch# fcping fcid 0xd70000 vsan 1
```

次に、count オプションを使用して、送信するフレーム数を設定する例を示します。指定できる範囲は 0 ~ 2147483647 です。値を 0 にすると、ping を実行し続けます。

```
switch# fcping fcid 0xd70000 vsan 1 count 10
```

次に、タイムアウト値を設定する例を示します。

```
switch# fcping fcid 0xd500b4 vsan 1 timeout 10
```

次に、指定した宛先のデバイスエイリアスを使用した `fcping` 操作を表示する例を示します。

```
switch# fcping device-alias x vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show fcdomain</code>	ファイバチャネルドメイン (fcdomain) 情報を表示します。

fcroute

ファイバチャネルルートを設定し、ポリシールーティングを有効にするには、**fcroute** コマンドを使用します。この設定を削除するか、工場出荷時のデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcroute {fcid [network-mask] interface {fc slot/port | san-port-channel port | vfc vfc-id} domain domain-id {metric number | remote | vsan vsan-id}}
```

```
no fcroute {fcid [network-mask] interface {fc slot/port | san-port-channel port | vfc vfc-id} domain domain-id {metric number | remote | vsan vsan-id}}
```

構文の説明

<i>fcid</i>	FC ID を指定します。フォーマットは 0xhhhhhh です。
<i>network-mask</i>	(任意) FC ID のネットワーク マスクを指定します。フォーマットは 0x0 ~ 0xfffff です。
interface	インターフェイスを指定します。
fc slot/port	ファイバチャネルインターフェイスと、そのスロット番号およびポート番号を指定します。
san-port-channel port	SAN ポートチャネルインターフェイスを指定します。
vfc vfc-id	バーチャルファイバチャネルインターフェイスを指定します。
domain domain-id	ネクストホップスイッチのドメインに対するルート指定します。有効な範囲は 1 ~ 239 です。
metric number	ルートのコストを指定します。指定できる範囲は 1 ~ 65535 です。デフォルトのコストは 10 です。
remote	リモート接続している宛先スイッチのスタティックルートを設定します。
vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、転送情報をスイッチに割り当て、優先パスのルートマップを有効にします。

例

次に、VSAN 2 のファイバチャネルインターフェイス、およびネクストホップスイッチのドメインに対するルート指定する例を示します。

```
switch(config)# fcroute 0x111211 interface fc3/1 domain 3 vsan 2
```

次に、VSAN 4 の SAN ポートチャネルインターフェイス、およびネクストホップスイッチのドメインに対するルート指定する例を示します。

```
switch(config)# fcroute 0x111211 interface san-port-channel 1 domain 3 vsan 4
```

次に、VSAN 1 のファイバ チャネル インターフェイス、ネクスト ホップ スイッチのドメインに対するルート、およびルートのコストを指定する例を示します。

```
switch(config)# fcroute 0x031211 interface fc1/1 domain 3 metric 1 vsan 1
```

次に、VSAN 3 のファイバ チャネル インターフェイス、ネクスト ホップ スイッチのドメインに対するルート、およびルートのコストを指定して、リモートで接続している宛先スイッチのスタティックルートを設定する例を示します。

```
switch(config)# fcroute 0x111112 interface fc3/1 domain 3 metric 3 remote vsan 3
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcroute	ファイバ チャネル ルートを表示します。
fcroute-map	優先パスのファイバ チャネル ルート マップを指定します。
show fcroute-map	優先パスのルート マップ設定およびステータスを表示します。
fcroute policy	優先パスのファイバ チャネル ルート マップを有効にします。
fcroute-map	

fcs plat-check-global

ファブリック全体での Fabric Configuration Server (FCS; ファブリック コンフィギュレーション サーバ) プラットフォームおよびノード名のチェックをイネーブルにするには、**fcs plat-check-global** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcs plat-check-global vsan vsan-id

no fcs plat-check-global vsan vsan-id

構文の説明	vsan vsan-id	プラットフォーム チェックの VSAN ID を 1 ~ 4096 の範囲で指定します。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
例	次に、FCS プラットフォームおよびノード名のチェックをファブリック全体でイネーブルにする例を示します。 switch(config)# fcs plat-check-global vsan 2	
関連コマンド	コマンド	説明
	show fcs	ファブリック設定サーバ情報を表示します。

fcs register

Fabric Configuration Server (FCS; ファブリック コンフィギュレーション サーバ) 属性を登録するには、**fcs register** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcs register

no fcs register

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、FCS 属性を登録する例を示します。

```
switch(config)# fcs register
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcs	ファブリック設定サーバ情報を表示します。

fcs virtual-device-add

FCS からのゾーン情報に関するクエリーに仮想デバイスを含めるには、**fcs virtual-device-add** コマンドを使用します。仮想デバイスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcs virtual-device-add [vsan-ranges vsan-ids]
```

```
no fcs virtual-device-add [vsan-ranges vsan-ids]
```

構文の説明	<code>vsan-ranges vsan-ids</code> (任意) VSAN の範囲を 1 つ以上指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。				
コマンド デフォルト	ディセーブル				
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション モード				
コマンド履歴	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>5.0(2)N1(1)</td><td>このコマンドが導入されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。				
使用上のガイドライン	VSAN の範囲は <code>vsan-ids-vsan-ids</code> のように使用します。複数の範囲を指定する場合は、各範囲をカンマで区切ります。範囲を指定しないと、コマンドはすべての VSAN に適用されます。				
例	次に、1 つの範囲の VSAN に追加する例を示します。 <pre>switch(config)# fcs virtual-device-add vsan-ranges 2-4</pre> 次に、複数の範囲の VSAN に追加する例を示します。 <pre>switch(config)# fcs virtual-device-add vsan-ranges 2-4,5-8</pre>				
関連コマンド	<table><thead><tr><th>コマンド</th><th>説明</th></tr></thead><tbody><tr><td><code>show fcs</code></td><td>ファブリック設定サーバ情報を表示します。</td></tr></tbody></table>	コマンド	説明	<code>show fcs</code>	ファブリック設定サーバ情報を表示します。
コマンド	説明				
<code>show fcs</code>	ファブリック設定サーバ情報を表示します。				

fcsp

Fibre Channel Security Protocol (FC-SP) 対応のスイッチの特定のインターフェイスについて FC-SP 認証モードを設定するには、**fcsp** コマンドを使用します。インターフェイスの FC-SP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcsp {**auto-active** | **auto-passive** | **on** | **off**} [*timeout-period*]

no fcsp

構文の説明

auto-active	指定のインターフェイスを認証するため、 auto-active モードを設定します。
auto-passive	指定のインターフェイスを認証するため、 auto-passive モードを設定します。
on	指定のインターフェイスを認証するため、 on モードを設定します。
off	指定のインターフェイスを認証するため、 off モードを設定します。
<i>timeout-period</i>	(任意) インターフェイスを再認証するためのタイムアウト期間を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 100000 分です (0 がデフォルトで、認証は実行されません)。

コマンド デフォルト

auto-passive モード

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、**feature fcsp** コマンドを使用して FC-SP をイネーブルにする必要があります。

例

次に、スロット 2 のポート 1 のファイバチャネルインターフェイスに対して、認証モードをオンにする例を示します。

```
switch(config)# interface fc 2/1
switch(config-if)# fcsp on
switch(config-if)#
```

次に、選択されたインターフェイスを、工場出荷時のデフォルト状態 (**auto-passive**) に戻す例を示します。

```
switch(config-if)# no fcsp
```

次に、選択されたインターフェイスを、FC-SP 認証を開始するように変更する例を示します (ただし、再認証は許可しません)。

```
switch(config-if)# fcsp auto-active 0
```


関連コマンド

コマンド	説明
feature fcsp	FC-SP をイネーブルにします。
show interface	指定のインターフェイスのインターフェイス設定を表示します。

fcsp dhchap

スイッチの DHCHAP オプションを設定するには、**fcsp dhchap** コマンドを使用します。工場出荷時のデフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcsp dhchap {devicename switch-wwn password [0 | 7] password |
  dhgroup [0] [1][2][3][4] | hash [md5 | sha1] | password [0 | 7] password [wwn-id]}
```

```
no fcsp dhchap {devicename switch-wwn password [0 | 7] password |
  dhgroup [0] [1][2][3][4] | hash [md5 | sha1] | password [0 | 7] password [wwn-id]}
```

構文の説明

devicename	ファブリック内の別のデバイスのパスワードを設定します。
<i>switch-wwn</i>	設定するデバイスの WWN を指定します。
password	ローカル スイッチの DHCHAP パスワードを設定します。
0	(任意) クリア テキスト パスワードを指定します。
7	(任意) 暗号化されたテキストでパスワードを指定します。
dhgroup	DHCHAP Diffie-Hellman グループ プライオリティ リストを設定します。
0	(任意) Null DH を指定します。交換は実行されません (デフォルト)。
1 2 3 4	(任意) 標準で指定される 1 つ以上のグループを指定します。
hash	優先順位に従って DHCHAP ハッシュ アルゴリズム プライオリティ リストを設定します。
md5	(任意) Message Digest 5 (MD5) ハッシュ アルゴリズムを指定します。
sha1	(任意) SHA-1 ハッシュ アルゴリズムを指定します。
<i>wwn-id</i>	(任意) WWN ID を指定します。形式は、hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh です。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

fcsp dhchap コマンドが表示されるのは、**feature fcsp** コマンドを入力した場合だけです。

ハッシュ アルゴリズムとして SHA-1 を使用すると、Remote Authentication Dial-In User Service (RADIUS) または TACACS+ が使用できなくなります。

DH グループの設定を変更する場合は、ファブリック内のすべてのスイッチに対して設定をグローバルに変更してください。

例

次に、FC-SP をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# # feature fcsp
```

次に、SHA-1 ハッシュ アルゴリズムだけを使用する場合の設定の例を示します。

```
switch(config)# fcsp dhchap hash sha1
```

次に、MD-5 ハッシュ アルゴリズムだけを使用する場合の設定の例を示します。

```
switch(config)# fcsp dhchap hash md5
```

次に、DHCHAP 認証に対して、MD-5 を使用してから SHA-1 を使用する、デフォルトのハッシュ アルゴリズム プライオリティ リストの使用を定義する例を示します。

```
switch(config)# fcsp dhchap hash md5 sha1
```

次に、MD-5 ハッシュ アルゴリズムを使用してから SHA-1 ハッシュ アルゴリズムを使用する、工場出荷時のデフォルトのプライオリティ リストに戻す例を示します。

```
switch(config)# no fcsp dhchap hash sha1
```

次に、設定された順番で、DH グループ 2、3、および 4 を優先的に使用する例を示します。

```
switch(config)# fcsp dhchap dhgroup 2 3 4
```

次に、ローカル スイッチのクリア テキスト パスワードを設定する例を示します。

```
switch(config)# fcsp dhchap password 0 mypassword
```

次に、指定した WWN を持つデバイスに使用されるローカル スイッチのクリア テキスト パスワードを設定する例を示します。

```
switch(config)# fcsp dhchap password 0 mypassword 30:11:bb:cc:dd:33:11:22
```

次に、ローカル スイッチに対して暗号化フォーマットで入力されるパスワードを設定する例を示します。

```
switch(config)# fcsp dhchap password 7 sfsfdf
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature fcsp	FC-SP をイネーブルにします。
show fcsp	設定された FC-SP 情報を表示します。

fcsp reauthenticate

ファイバ チャンネルまたはバーチャル ファイバ チャンネルのインターフェイスを再認証するには、**fcsp reauthenticate** コマンドを使用します。工場出荷時のデフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcsp reauthenticate interface {fc slot/port | vfc vfc-id}
```

```
no fcsp reauthenticate interface {fc slot/port | vfc vfc-id}
```

構文の説明

interface	再認証を実行するインターフェイスを指定します。
fc slot/port	ファイバ チャンネル インターフェイスのスロット番号およびポート番号を指定します。
vfc vfc-id	仮想ファイバ チャンネル インターフェイスを、仮想インターフェイス グループ番号および仮想インターフェイス ID で指定します。

コマンド デフォルト

30 秒

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、仮想ファイバ チャンネル インターフェイスに Fibre Channel Security Protocol (FC-SP) 再認証を設定する例を示します。

```
switch# fcsp reauthenticate vfc 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature fcsp	FC-SP をイネーブルにします。
show fcsp	設定された FC-SP 情報を表示します。

fcsp timeout

Fibre Channel Security Protocol (FC-SP) メッセージのタイムアウト値を設定するには、**fcsp timeout** コマンドを使用します。工場出荷時のデフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcsp timeout *timeout-period*

no fcsp timeout *timeout-period*

構文の説明

timeout-period タイムアウトの期間を指定します。時間の範囲は 20 ~ 100 秒です。

コマンド デフォルト

30 秒

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

fcsp timeout コマンドを表示できるのは、**feature fcsp** コマンドを使用して FC-SP をイネーブルにしたときだけです。

例

次に、FCSP タイムアウト値を設定する例を示します。

```
switch(config)# feature fcsp
switch(config)# fcsp timeout 60
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature fcsp	FC-SP をイネーブルにします。
show fcsp	設定された FC-SP 情報を表示します。

fctimer

デフォルトのファイバ チャンネル タイマーを変更するには、**fctimer** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fctimer {d_s_tov milliseconds | e_d_tov milliseconds | r_a_tov milliseconds} [vsan vsan-id]
```

```
no fctimer {d_s_tov milliseconds | e_d_tov milliseconds | r_a_tov milliseconds} [vsan vsan-id]
```

構文の説明

d_s_tov milliseconds	Distributed Services のタイムアウト値 (DS_TOV) を指定します。有効な範囲は 5000 ~ 100000 ミリ秒です。
e_d_tov milliseconds	Error Detect のタイムアウト値 (ED_TOV) を指定します。有効な範囲は 1000 ~ 100000 ミリ秒で、デフォルトは 2000 ミリ秒です。
r_a_tov milliseconds	Resolution Allocation タイムアウト値 (RA_TOV) を指定します。有効な範囲は 5000 ~ 100000 ミリ秒で、デフォルトは 10000 ミリ秒です。
vsan vsan-id	(任意) VSAN ID を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 4096 です。

コマンド デフォルト

ファイバ チャンネル タイマーのデフォルト値は次のとおりです。

- DS_TOV : 30 秒
- ED_TOV : 2 秒
- RA_TOV : 10 秒

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

Cisco、Brocade、および McData の FC Error Detect (ED_TOV) と Resource Allocation (RA_TOV) のタイマーは、デフォルトで同一の値に設定されています。これらの値は、必要に応じて変更できません。FC-SW2 規定に準拠しているため、これらの値はファブリック内の各スイッチで同一の値にする必要があります。

特定の VSAN に異なる TOV 値を設定する場合は、**vsan** オプションを使用します。

例

次に、デフォルトのファイバ チャンネル タイマーを変更する例を示します。

```
switch(config)# fctimer e_d_tov 5000
switch(config)# fctimer r_a_tov 7000
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fctimer	設定されたファイバ チャンネル タイマー値を表示します。

fctimer abort

進行中のファイバチャネル タイマー (fctimer) Cisco Fabric Services (CFS) 配信セッションを廃棄するには、**fctimer abort** コマンドを使用します。

fctimer abort

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

例

次の例は、処理中の CFS 配信セッションを廃棄する例を示します。

```
switch(config)# fctimer abort
```

関連コマンド

コマンド	説明
fctimer distribute	fctimer の CFS 配信をイネーブルにします。
show fctimer	fctimer 情報を表示します。

fctimer commit

ファブリック内で処理中のファイバチャネル タイマー (fctimer) Cisco Fabric Service (CFS) 配信セッションに関連した保留中のコンフィギュレーションを適用するには、**fctimer commit** コマンドを使用します。

fctimer commit

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

例

次に、アクティブなファイバチャネル タイマー コンフィギュレーションへの変更をコミットする例を示します。

```
switch(config)# fctimer commit
```

関連コマンド

コマンド	説明
fctimer distribute	fctimer の CFS 配信をイネーブルにします。
show fctimer	fctimer 情報を表示します。

fctimer distribute

ファイバ チャネル タイマー (fctimer) の Cisco Fabric Service (CFS) 配信をイネーブルにするには、**fctimer distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fctimer distribute

no fctimer distribute

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ファイバ チャネル タイマーの変更をファブリックに配信する前に、**fctimer commit** コマンドを使用して、コンフィギュレーションへの一時的な変更をアクティブ コンフィギュレーションに確定する必要があります。

例

次に、デフォルトのファイバ チャネル タイマーを変更する例を示します。

```
switch(config)# fctimer distribute
```

関連コマンド

コマンド	説明
fctimer commit	ファイバ チャネル タイマー コンフィギュレーションの変更をアクティブ コンフィギュレーションに確定します。
show fctimer	fctimer 情報を表示します。

fctrace

N ポートへのルートをトレースするには、**fctrace** コマンドを使用します。

```
fctrace {device-alias aliasname | fcid fcid | pwwn pwwn-id} vsan vsan-id [timeout seconds]
```

構文の説明

device-alias <i>aliasname</i>	デバイスエイリアス名を指定します。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
fcid <i>fcid</i>	宛先 N ポートの FCID を指定し、形式は 0xhhhhhh です。
pwwn <i>pwwn-id</i>	宛先 N ポートの PWWN を指定し、形式は、 hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh です。
vsan <i>vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
timeout <i>seconds</i>	(任意) タイムアウト値を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 10 です。

コマンドデフォルト

デフォルトでは、タイムアウトまでの待機時間は 5 秒に設定されています。

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、VSAN 1 の指定 FCID へのルートをトレースする例を示します。

```
switch# fctrace fcid 0x660000 vsan 1
```

次に、VSAN 1 の指定デバイスエイリアスへのルートをトレースする例を示します。

```
switch# fctrace device-alias x vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
fping	N ポートに ping を実行します。

fdmi suppress-updates

Fabric-Device Management Interface (FDMI) アップデートを停止するには、**fdmi suppress-updates** コマンドを使用します。

fdmi suppress-updates vsan vsan-id

構文の説明

vsan vsan-id VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト

デフォルトでは、FDMI アップデートは停止されません。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、VSAN 1 の FDMI アップデートを停止する例を示します。

```
switch# fdmi suppress-updates vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fdmi	FDMI データベース情報を表示します。

feature fabric-binding

仮想 SAN (VSAN) のファブリック バインディングをイネーブルにするには、**feature fabric-binding** コマンドを使用します。ファブリック バインディングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature fabric-binding

no feature fabric-binding

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ファブリック バインディングは、VSAN 単位で設定します。

ファブリック バインディングに参加するファブリック内のスイッチごとに、ファブリック バインディング機能をイネーブルにする必要があります。

例

次に、スイッチのファブリック バインディングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature fabric-binding
switch(config)#
```

次に、スイッチのファブリック バインディングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no feature fabric-binding
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
fabric-binding activate	ファブリック バインディングをアクティブにします。
fabric-binding database	ファブリック バインディング データベースを設定します。

feature fc-port-security

ポートセキュリティをイネーブルにするには、**feature fc-port-security** コマンドを使用します。ポートセキュリティをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature fc-port-security

no feature fc-port-security

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

feature fc-port-security コマンドを入力すると、FC ポートセキュリティの設定に使用される他のコマンドがイネーブルになります。

例

次に、ポートセキュリティをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature fc-port-security
```

次に、ポートセキュリティをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no feature fc-port-security
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fc-port-security	ポートセキュリティ情報を表示します。

feature fcoe

FC_FEATURES_PKG ライセンスのインストール後にバーチャルおよびネイティブのファイバ チャネル インターフェイスをイネーブルにするには、**feature fcoe** コマンドを使用します。ファイバ チャネル インターフェイスをディセーブルにして、FC_FEATURES_PKG ライセンスをライセンス マネージャ ソフトウェアに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature fcoe

no feature fcoe

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

FCoE 機能をイネーブルまたはディセーブルにするには、コンフィギュレーションを保存してからスイッチをリブートする必要があります。

例

次に、スイッチの FCoE をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature fcoe
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcoe	FCoE パラメータを設定します。
show feature	FCoE がスイッチでイネーブルになっているかどうかを表示します。

feature fcoe-npv

Fibre Channel over Ethernet (FCoE) N ポート バーチャライザ (NPV) をイネーブルにするには、**feature fcoe-npv** コマンドを使用します。FCoE NPV をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature fcoe-npv

no feature fcoe-npv

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N2(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

以前に FCoE を (**feature fcoe** コマンドを使用して) スイッチ上でイネーブルにした場合、FCoE NPV 機能をイネーブルにすることはできません。FCoE NPV をイネーブルにするには、FCoE 機能をディセーブルにして、システムをリロードし、次にスイッチで FCoE NPV をイネーブルにします。

このコマンドには、FCoE NPV ライセンスが必要です。

例

次に、スイッチで FCoE NPV をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature fcoe-npv
FCoE NPV license checked out successfully
fc_plugin extracted successfully
FC plugin loaded successfully
FCoE manager enabled successfully
FCoE NPV enabled on all modules successfully
Warning: Ensure class-fcoe is included in qos policy-maps of all types
switch(config)#
```

次に、スイッチ上で FCoE NPV をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no feature fcoe-npv
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
bind mac-address	仮想ファイバチャネルインターフェイスに MAC アドレスをバインドします。
show feature	FCoE がスイッチでイネーブルになっているかどうかを表示します。

feature fcsp

スイッチの Fibre Channel Security Protocol (FC-SP) をイネーブルにするには、**feature fcsp** コマンドを使用します。FC-SP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature fcsp

no feature fcsp

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

ディセーブル

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

FC-SP 機能がイネーブルであれば、他の FC-SP コマンドを使用できます。

例

次に、FC-SP をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature fcsp
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcsp	設定された FC-SP 情報を表示します。

feature fex

スイッチでファブリック エクステンダ (FEX) 機能をイネーブルにするには、**feature fex** コマンドを使用します。FEX をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature fex

no feature fex

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、スイッチで FEX 機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature fex
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
fex	ファブリック エクステンダを作成し、ファブリック エクステンダ コンフィギュレーション モードを開始します。
show feature	スイッチでイネーブルまたはディセーブルである機能を表示します。

feature npiv

スイッチのすべての Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) の N Port Identifier Virtualization (NPIV; N ポート識別子仮想化) をイネーブルにするには、**feature npiv** コマンドを使用します。NPIV をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature npiv

no feature npiv

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

NPIV は、単一 N ポートに複数のポート ID を割り当てる手段を提供します。この機能を使用すると、N ポート上の複数のアプリケーションが異なる ID を使用したり、アクセス コントロール、ゾーニング、ポート セキュリティをアプリケーション レベルで実装したりできます。

スイッチ上のすべての VSAN に対して NPIV をグローバルでイネーブルにし、NPIV 対応のアプリケーションが複数の N ポート ID を使用できるようにする必要があります。

例

次に、スイッチのすべての VSAN について、NPIV をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature npiv
```

次に、スイッチのすべての VSAN について、NPIV をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no feature npiv
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	インターフェイス設定を表示します。

feature npv

N Port Virtualization (NPV; N ポート仮想化) モードをイネーブルにするには、**feature npv** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature npv

no feature npv

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

NPV モードをイネーブルにすると、インターフェイスに関連したスイッチ コンフィギュレーションが消去され、スイッチは再起動します。スイッチは NPV モードで再起動します。NPV の設定および確認コマンドは、NPV がスイッチでイネーブルの場合にだけ、使用できます。NPV モードをディセーブルにした場合、関連するすべての設定が自動的に消去され、スイッチは再起動します。

例

次に、NPV モードをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature npv
```

関連コマンド

コマンド	説明
show npv status	NPV の現在のステータスを表示します。

feature port-track

間接的なエラーを見つけるためのポート トラッキングをイネーブルにするには、**feature port-track** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature port-track

no feature port-track

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

追跡されたポートがダウンになると、ソフトウェアはリンクされたポートをダウンにします。追跡されたポートが障害から復旧して再度アップになると、リンクされたポートも自動的にアップになります (特に別の設定がないかぎり)。

例

次に、ポート トラッキングをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature port-track
```

次に、ポート トラッキングをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no feature port-track
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface fc	指定したファイバ チャネル インターフェイスの設定およびステータス情報を表示します。
show interface san-port-channel	指定の SAN ポート チャネル インターフェイスの設定およびステータス情報を表示します。

feature-set virtualization

スイッチで Cisco 仮想マシン機能をイネーブルにするには、**feature-set virtualization** コマンドを使用します。仮想化機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature-set virtualization

no feature-set virtualization

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン



(注) シスコ仮想マシン機能は、Cisco Nexus 5500 シリーズ スイッチでだけサポートされます。

このコマンドを使用する前に、**install feature-set virtualization** コマンドを使用して、必ずスイッチ上で仮想化フィーチャセットをインストールしておきます。

スイッチ上でシスコ仮想マシンをイネーブルにするまで、仮想化コマンドの表示や仮想化コマンドへのアクセスはできません。



(注) スイッチでの仮想化をイネーブルにする前に、シスコ仮想マシンのフィーチャセットをインストールする必要があります。

スイッチでこの機能をディセーブルにする前に、次の作業を実行します。

- スイッチ上のすべての仮想イーサネット インターフェイス コンフィギュレーションを削除します。
- スイッチ上のすべての仮想ネットワーク タグ (VNTag) コンフィギュレーションを削除します。
- すべての vethernet タイプのポート プロファイルを削除します。
- **switchport mode access** コマンドを使用してポート モードをアクセスに変更します。

このコマンドには、Enhanced Layer 2 ライセンスが必要です。

例

次に、スイッチ上の仮想化機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature-set virtualization
switch(config)#
```

次に、スイッチ上の仮想化機能をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# no feature-set virtualization  
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface vethernet	仮想イーサネット (vEth) インターフェイスを設定します。
install feature-set virtualization	仮想化フィーチャ セットをスイッチにインストールします。
show feature-set	仮想化フィーチャ セットのステータスを表示します。

fex

Cisco Nexus 2000 シリーズ ファブリック エクステンダを作成し、ファブリック エクステンダ コンフィギュレーション モードを開始するには、**fex** コマンドを使用します。ファブリック エクステンダ 設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fex chassis_ID
```

```
no fex chassis_ID
```

構文の説明	<i>chassis_ID</i>	ファブリック エクステンダ シャーシ ID。有効なシャーシ ID の範囲は 100 ~ 199 です。
-------	-------------------	---

コマンド デフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション モード
----------	-----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン ファブリック エクステンダは、親スイッチ上のインターフェイスに対して接続および関連付けが行われる前に、作成および設定を行うことができます。ファブリック エクステンダをスイッチに関連付けると、作成した設定がファブリック エクステンダに転送され、適用されます。

例 次に、ファブリック エクステンダ コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# fex 101
switch(config-fex)#
```

次に、ファブリック エクステンダ設定を削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no fex 101
switch(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	fcoe	Fibre Channel over Ethernet (FCoE) トラフィックのために、ファブリック エクステンダをスイッチに接続します。
	show fex	スイッチに接続されているすべての設定済みファブリック エクステンダ シャーシを表示します。

fspf config

Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) 全体の Fabric Shortest Path First (FSPF) 機能を設定するには、**fspf config** コマンドを使用します。VSAN 全体の FSPF 設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```

fspf config vsan vsan-id
  min-ls-arrival ls-arrival-time
  min-ls-interval ls-interval-time
  region region-id
  spf {hold-time spf-holdtime | static}

```

```

no min-ls-arrival
no min-ls-interval
no region
no spf {hold-time | static}

```

```

no fspf config vsan vsan-id

```

構文の説明

vsan <i>vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ～ 4093 です。
min-ls-arrival <i>ls-arrival-time</i>	ドメインの新しいリンク ステート アップデートがスイッチによって受け入れられるまで最小時間を指定します。 <i>ls-arrival-time</i> は、ミリ秒単位の時間を指定する整数です。指定できる範囲は 0 ～ 65535 です。
min-ls-interval <i>ls-interval-time</i>	ドメインの新しいリンク ステート アップデートがスイッチによって生成されるまで最小時間を指定します。 <i>ls-interval-time</i> は、時間を指定するミリ秒単位の整数です。指定できる範囲は 0 ～ 65535 です。
region <i>region-id</i>	スイッチが属している自律領域を指定します。バックボーン領域は、 <i>region-id</i> =0 です。 <i>region-id</i> は符号なし整数値で、範囲は 0 ～ 255 です。
spf	Shortest Path First (SPF) ルート計算に関連するパラメータを指定します。
hold-time <i>spf-holdtime</i>	2 つの連続した SPF 計算の間の時間を指定します。時間が短い場合、ルーティングは変更に対して速く処理されますが、CPU の使用率が高くなります。 <i>spf-holdtime</i> は、時間を指定するミリ秒単位の整数です。指定できる範囲は 0 ～ 65535 です。
static	スタティックな SPF を強制的に計算します。

コマンドデフォルト

このコマンドは、バーチャル ファイバ チャネル インターフェイスには使用できません。FSPF コンフィギュレーション モードでは、デフォルトはダイナミック SPF 計算です。*spf hold-time* を設定する場合、FSPF のデフォルト値は 0 です。*min-ls-arrival* を設定する場合、FSPF のデフォルト値は 1000 ミリ秒です。*min-ls-interval* を設定する場合、FSPF のデフォルト値は 5000 ミリ秒です。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

fspf config コマンドを使用すると、指定の Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) の FSPF コンフィギュレーション モードを開始できます。FSPF コンフィギュレーション モードでは、コマンドによってこの VSAN の FSPF が設定されます。

例

次に、VSAN 1 のスタティック SPF 計算を設定し、VSAN 3 の FSPF コンフィギュレーションを削除する例を示します。

```
switch(config)# fspf config vsan 1
switch(fspf-config)# spf static
switch(fspf-config)# exit
switch(config)# no fspf config vsan 3
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fspf interface	選択した各インターフェイスの情報を表示します。
fspf enable	指定された VSAN 内で FSPF ルーティング プロトコルをイネーブルにします。
fspf cost	指定された VSAN 内の選択されたインターフェイスにコストを設定します。
fspf hello-interval	VSAN 内のリンクの状態を確認するために、hello メッセージ インターバルを指定します。
fspf passive	指定された VSAN 内の特定のインターフェイスに対して FSPF プロトコルをディセーブルにします。
fspf retransmit	指定された VSAN の未確認応答リンク ステート アップデートの再送信タイム インターバルを指定します。

fspf cost

Fibre Channel over IP (FCIP) インターフェイスまたは仮想ファイバ チャンネル インターフェイスの Fabric Shortest Path First (FSPF) リンク コストを設定するには、**fspf cost** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fspf cost link-cost vsan vsan-id

no fspf cost link-cost vsan vsan-id

構文の説明

<i>link-cost</i>	FSPF リンク コストを秒単位で指定します。 FCIP インターフェイスの場合、範囲は 1 ～ 65535 です。 仮想 FC インターフェイスの場合、範囲は 1 ～ 30000 です。
vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ～ 4093 です。

コマンドデフォルト

- 1 ギガビット/秒のインターフェイスでは 1000 秒
- 2 ギガビット/秒のインターフェイスでは 500 秒

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N2(1)	このコマンドが導入されました。
5.0(2)N2(1)	仮想ファイバ チャンネル インターフェイスのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

FSPF はファブリック内のすべてのスイッチのリンク ステータスを追跡し、データベース内の各リンクにコストを対応付け、コストが最小なパスを選択します。インターフェイスに関連付けられたコストは、**fspf cost** コマンドを使用すれば変更可能で、FSPF ルート選択が実装されます。

仮想ファイバ チャンネル インターフェイスの場合、このコマンドは、仮想 E (VE) ポートの FSPF パラメータを設定します。

例

次に、FCIP インターフェイスで FSPF リンク コストを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface fc 2/1
switch(config-if)# fspf cost 5000 vsan 1
```

次に、仮想ファイバ チャンネル インターフェイスで FSPF リンク コストを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface vfc 5
switch(config-if)# fspf cost 2100 vsan 1
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fspf interface	選択した各インターフェイスの情報を表示します。
show interface fc	指定したファイバチャネルインターフェイスのインターフェイス設定を表示します。
switchport mode E	仮想ファイバチャネルインターフェイスを VE ポートとして設定します。

fspf dead-interval

hello メッセージが受信されず、ネイバーがダウンしたと判断されるまでの最大インターバルを設定するには、**fspf dead-interval** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fspf dead-interval *seconds vsan vsan-id*

no fspf dead-interval *seconds vsan vsan-id*

構文の説明

<i>seconds</i>	FSPF のデッド インターバルを秒単位で指定します。有効な範囲は 2 ~ 65535 です。
<i>vsan vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト

80 秒

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N2(1)	このコマンドが導入されました。
5.0(2)N2(1)	仮想ファイバ チャンネル インターフェイスのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

この値は、ISL の両端のポートで同じでなければなりません。



注意

設定したデッド時間間隔が hello 時間間隔より短い場合、コマンドプロンプトでエラーが報告されます。

仮想ファイバ チャンネル インターフェイスの場合、このコマンドは、仮想 E (VE) ポートの FSPF パラメータを設定します。

例

次に、ネイバーがダウンしたと見なされるまでの、hello メッセージの最大インターバルを 4000 秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# interface fc 2/1
switch(config-if)# fspf dead-interval 4000 vsan 1
switch(config-if)#
```

次に、仮想ファイバ チャンネル インターフェイスで、ネイバーがダウンしたと見なされるまでの、hello メッセージの最大インターバルを 300 秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# interface vfc 5
switch(config-if)# fspf dead-interval 300 vsan 1
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fspf interface	選択した各インターフェイスの情報を表示します。
show interface fc	指定したファイバチャネルインターフェイスのインターフェイス設定を表示します。
switchport mode E	仮想ファイバチャネルインターフェイスを VE ポートとして設定します。

fspf enable

Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) の Fabric Shortest Path First (FSPF) をイネーブルにするには、**fspf enable** コマンドを使用します。FSPF ルーティング プロトコルをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fspf enable vsan vsan-id

no fspf enable vsan vsan-id

構文の説明

vsan vsan-id VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト

イネーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、バーチャル ファイバ チャネル インターフェイスには使用できません。
このコマンドは VSAN 上で FSPF をグローバルに設定します。

例

次に、VSAN 5 の FSPF をイネーブルにし、VSAN 7 の FSPF をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# fspf enable vsan 5
switch(config)# no fspf enable vsan 7
```

関連コマンド

コマンド	説明
fspf config vsan	VSAN の FSPF 機能を設定します。
show fspf interface	選択した各インターフェイスの情報を表示します。

fspf hello-interval

リンク状態を確認するには、**fspf hello-interval** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fspf hello-interval seconds vsan vsan-id
```

```
no fspf hello-interval seconds vsan vsan-id
```

構文の説明

hello-interval seconds	FSPF の hello インターバルを秒単位で指定します。範囲は、Fibre Channel over IP (FCIP) インターフェイスの場合は 2 ~ 65535、仮想ファイバチャネル インターフェイスの場合は 1 ~ 65534 です。
vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト

20 秒

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N2(1)	このコマンドが導入されました。
5.0(2)N2(1)	仮想ファイバチャネル インターフェイスのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、指定のファイバチャネル インターフェイスの Fabric Shortest Path First (FSPF) を設定します。この値は、Fibre Channel over IP (FCIP) インターフェイスの ISL の両端のポートで同じである必要があります。

仮想ファイバチャネル インターフェイスの場合、このコマンドは、仮想 E (VE) ポートの FSPF パラメータを設定します。

例

次に、VSAN 1 の hello インターバルを 3 秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# interface fc 2/1
switch(config-if)# fspf hello-interval 3 vsan 1
```

次に、VSAN 1 の仮想ファイバチャネル インターフェイスの hello インターバルを 30 秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# interface vfc 5
switch(config-if)# fspf hello-interval 30 vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fspf interface	選択した各インターフェイスの情報を表示します。
switchport mode E	仮想ファイバチャネル インターフェイスを VE ポートとして設定します。

fspf passive

選択したインターフェイスの Fabric Shortest Path First (FSPF) プロトコルをディセーブルにするには、**fspf passive** コマンドを使用します。デフォルト状態に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fspf passive vsan vsan-id
```

```
no fspf passive vsan vsan-id
```

構文の説明

vsan vsan-id VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト

FSPF はイネーブルです。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N2(1)	このコマンドが導入されました。
5.0(2)N2(1)	仮想ファイバ チャネル インターフェイスのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、FSPF は Fibre Channel over IP (FCIP) インターフェイスのすべての E ポートおよび TE ポートでイネーブルです。FSPF をディセーブルにするには、**fspf passive** コマンドを使用してインターフェイスをパッシブに設定します。プロトコルが正常に動作するためには、ISL の両端のポートで FSPF をイネーブルにする必要があります。

仮想ファイバ チャネル インターフェイスの場合、このコマンドは、仮想 E (VE) ポートの FSPF パラメータを設定します。

例

次に、VSAN 1 の FCIP インターフェイスの FSPF プロトコルをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface fc 2/1
switch(config-if)# fspf passive vsan 1
```

次に、VSAN 1 の仮想ファイバ チャネル インターフェイスの FSPF プロトコルをディセーブルにし、インターフェイス コンフィギュレーションを確認する例を示します。

```
switch(config)# interface vfc 5
switch(config-if)# fspf passive vsan 1
switch(config-if)# show fspf interface
FSPF interface vfc5 in VSAN 1
FSPF routing administrative state is passive
Timer intervals configured, Hello 30 s, Dead 300 s, Retransmit 5 s
FSPF State is DOWN

switch(config-if)#
```


関連コマンド

コマンド	説明
show fspf interface	選択した各インターフェイスの情報を表示します。
show interface fc	指定した FCIP インターフェイスのインターフェイス設定を表示します。
switchport mode E	仮想ファイバチャネルインターフェイスを VE ポートとして設定します。

fspf retransmit-interval

未確認応答リンク状態アップデートがインターフェイス上で送信されるまでの時間を指定するには、**fspf retransmit-interval** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fspf retransmit-interval seconds vsan vsan-id
```

```
no fspf retransmit-interval seconds vsan vsan-id
```

構文の説明

<i>seconds</i>	Fabric Shortest Path First (FSPF) の再送信インターバルを秒単位で指定します。指定できる範囲は 1 ~ 65535 です。
<i>vsan vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト

5 秒

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
5.0(2)N2(1)	仮想ファイバ チャンネル インターフェイスのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

この値は、Fibre Channel over IP (FCIP) インターフェイスの ISL の両端のポートで同じである必要があります。

仮想ファイバ チャンネル インターフェイスの場合、このコマンドは、仮想 E (VE) ポートの FSPF パラメータを設定します。

例

次に、未確認応答リンク ステート アップデートが VSAN 1 のインターフェイス上で送信されるまでの再送信間隔を 6 秒に指定する例を示します。

```
switch(config)# interface fc 2/1
switch(config-if)# fspf retransmit-interval 6 vsan 1
```

次に、3 秒の再送信インターバルを指定し、インターバルの後に未確認応答リンク ステート アップデートが VSAN 1 の仮想ファイバ チャンネル インターフェイスで送信する例を示します。

```
switch(config)# interface vfc 5
switch(config-if)# fspf retransmit-interval 3 vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fspf interface	選択した各インターフェイスの情報を表示します。
show interface fc	指定した FCIP インターフェイスのインターフェイス設定を表示します。
switchport mode E	仮想ファイバ チャンネル インターフェイスを VE ポートとして設定します。